

新しい牧草・飼料作物品種と農業機械

平成16年度に北海道優良品種として認められ、根釧地域で利用可能な品種、及び根釧農試から成績が発表された農業機械を紹介します。

1. とうもろこし(サイレージ用)「北交62号」

熟期が早く、雌穂が多収な品種です。

根釧農試における露地栽培での試験結果では、初期生育は旺盛で、絹糸抽出期は、「早生の早」の標準品種である「エマ」より早く、また、収穫期の総体乾物率も高くなっています。

乾物収量、推定TDN収量は、「エマ」よりそれぞれ6%、9%多く、乾雌穂重割合は約50%に達します。乾物中推定TDN割合は、冷涼年(平成13-15年)の平均で70.3%、高温年(平成16年)では74.9%に達しました。4カ年平均でも71.8%となっており、栄養価の高い品種です。

冷害年での安定性

根釧地域では、とうもろこし(サイレージ用)品種には、冷害年でも栄養収量を安定して得られることが求められます。「北交62号」は、冷害年であった平成15年でも、一用品種で発生した雄穂の開花不全は観察されず、乾雌穂重割合49%を確保しました。そして、推定TDN収量は733kg/10aと、「エマ」の644kg/10aを大きく上回りました。

利用上の留意点

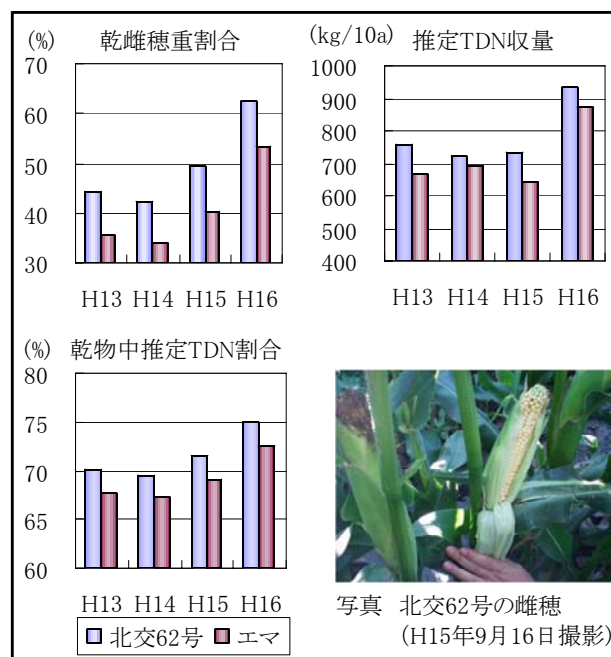
条件良好地では露地での安定栽培が可能で

作物科 林 拓・酪農施設科 吉田邦彦

(E-mail: thayashi@agri.pref.hokkaido.jp)

(E-mail: yoshikn@agri.pref.hokkaido.jp)

す。「北交62号」は「エマ」と同程度に倒伏することがありますが、「北交62号」の倒伏は、地面に完全に倒れる形ではなく、なびき型(雌穂と地面の間からしなるように傾く形態)です。よって、収穫に大型の自走式ハーベスターなどが使用できる条件であれば問題ありません。なお、露地の通常畦幅栽培では、栽植密度は8,000本~8,500本/10a(畦幅72cmでは株間17cm程度)が好適と考えられています。それ以上株間を狭くすると、倒伏が「エマ」より多く発生します。



「北交62号」の普及対象地域は、根釧地域のみとなっています。その他の地域では、倒伏しやすいことが分かっています。種子の本格流通は、平成18年からが予定されています。

2. オーチャードグラス「北海29号」

この品種の出穂始は「ワセミドリ」より1日遅く、「早生」に属します。「ワセミドリ」より越冬性に優れ、春と秋の収量性に優れています。また、秋の草量が比較的多いため、利用期間を長くとることができます。さらに、年次の経過にともなう収量の減少が少ないのが特長です。採草用、放牧用ともに利用可能です。種子供給は平成20年からが予定されています。

根釧地域では、草種の特徴として冬枯れしやすいので、注意が必要です。

3. スムーズブロムグラス「北見7号」

この草種は、干ばつに強い特色があります。主にアルファルファとの混播で利用されます。砂丘地などの干ばつになりやすい土地では、チモシー草地より生産性が高いとされています。

この品種は、標準品種「アイカップ」と比べ、収量性に優れ、スムーズブロムグラスの最重要病害である褐斑病に強い特長があります。さらに、越冬性は「アイカップ」より優れています。

根釧地域では、夏季に干ばつ被害を受ける圃場はほぼ無いと考えられますが、場合によっては、導入を検討してみてもいいかもしれません。

4. アルファルファ「SBA-9801」

この品種は、「マキワカバ」と開花期が同じ「早生」品種です。「マキワカバ」と比べ、収量性に優れ、特に根釧農試の3カ年合計乾物収量は9%多くなっています。また、そばかす病抵抗性はやや優れています。さらに、チモシーとの混播適性は同程度と考えられています。

多収で、そばかす病にも強いことから、根釧地域でも、利用に適していると考えられます。種子供給は平成17年からが予定されています。

5. シロクローバ「リースリング」

中葉型の品種です。オーチャードグラスとの混播試験の結果、合計乾物収量は、大葉型の標準品種「カリフォルニアラジノ」と同程度でした。また、冠部被度や乾物収量構成比（マメ科割合）を「カリフォルニアラジノ」と比べると、播種当年は少ないものの、2年目以降の減少程度が小さく、3年目では同程度となります。つまり、安定性、永続性に優れると考えられます。

この品種は大葉型品種と同様に利用可能で、根釧地域のチモシー（極早生・早生品種）主体草地への導入が可能と考えられます。種子供給は平成17年からが予定されています。

6. 家畜ふん尿水分調整機「M1200」

高水分のふん尿と副資材を混合して水分を調整する機械です。ふん尿供給装置と副資材供給装置、並びに円筒形の混合装置本体で構成され、各供給装置から繰り出される原料を本体で混合する仕組みです。副資材としてはオーガによる繰り出しが可能な資材（オガクズ、廃材チップ等）が利用できます。原料ふん尿の処理量はおよそ2t/hで、セミソリッド状のふん尿にも適用が可能です。多量の副資材を使用するため、導入計画時には副資材の使用量及び入手方法について、十分な検討が必要です。



写真 機械外観



写真 ふん尿排出の様子